



平成27年3月期 第2四半期決算説明会

説明者

代表取締役社長	小倉	忠
取締役常務執行役員財務部長	加藤	博



本日の内容

1. 平成27年3月期
第2四半期連結決算の概要
2. 平成27年3月期
連結業績予想及び重点施策

連結子会社

連結 20社 増加1社

増加：則武磨料磨具（蘇州）有限公司

（新規連結によるのもの）

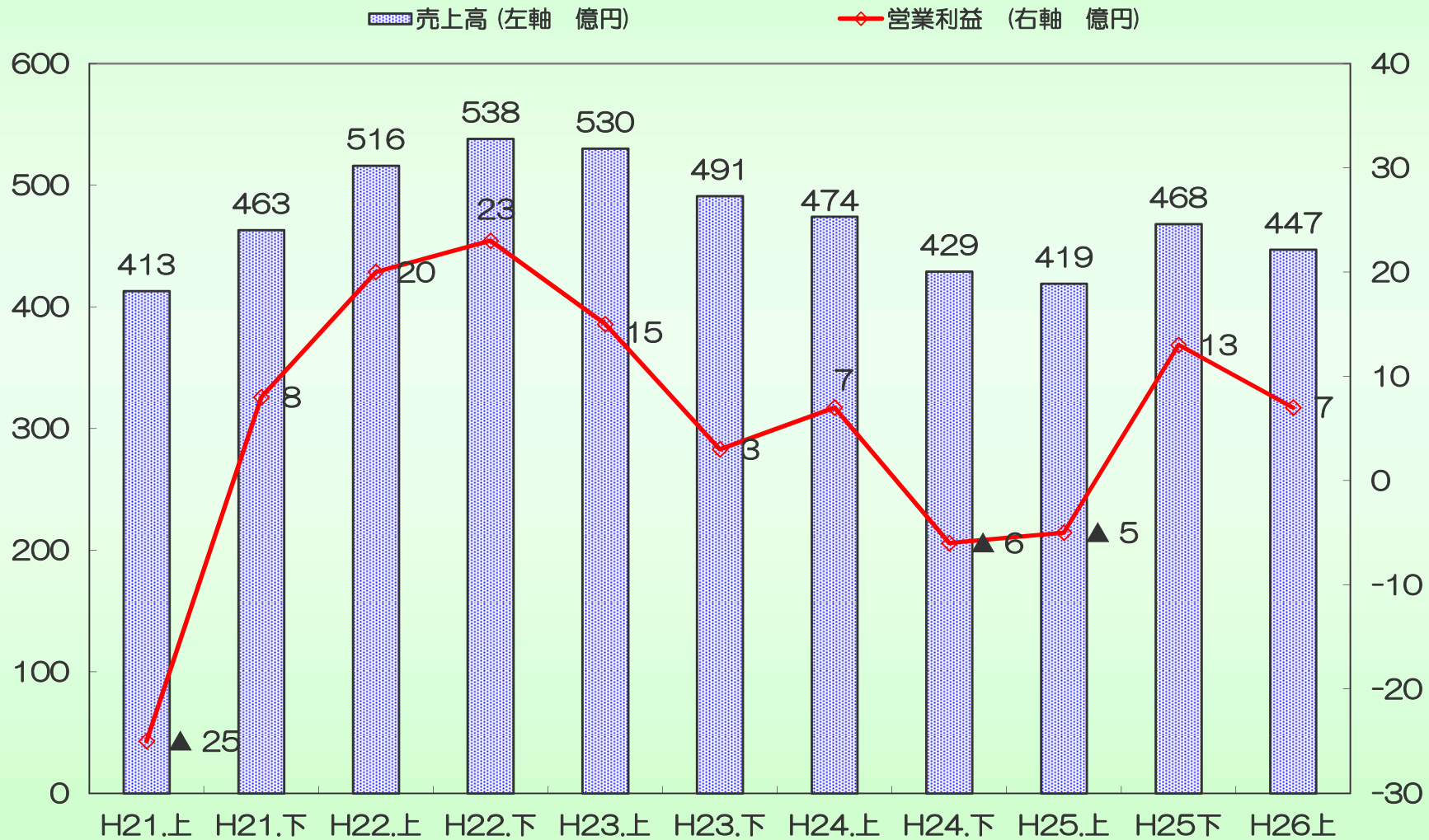
持分法 5社 増減なし

連結決算の概要

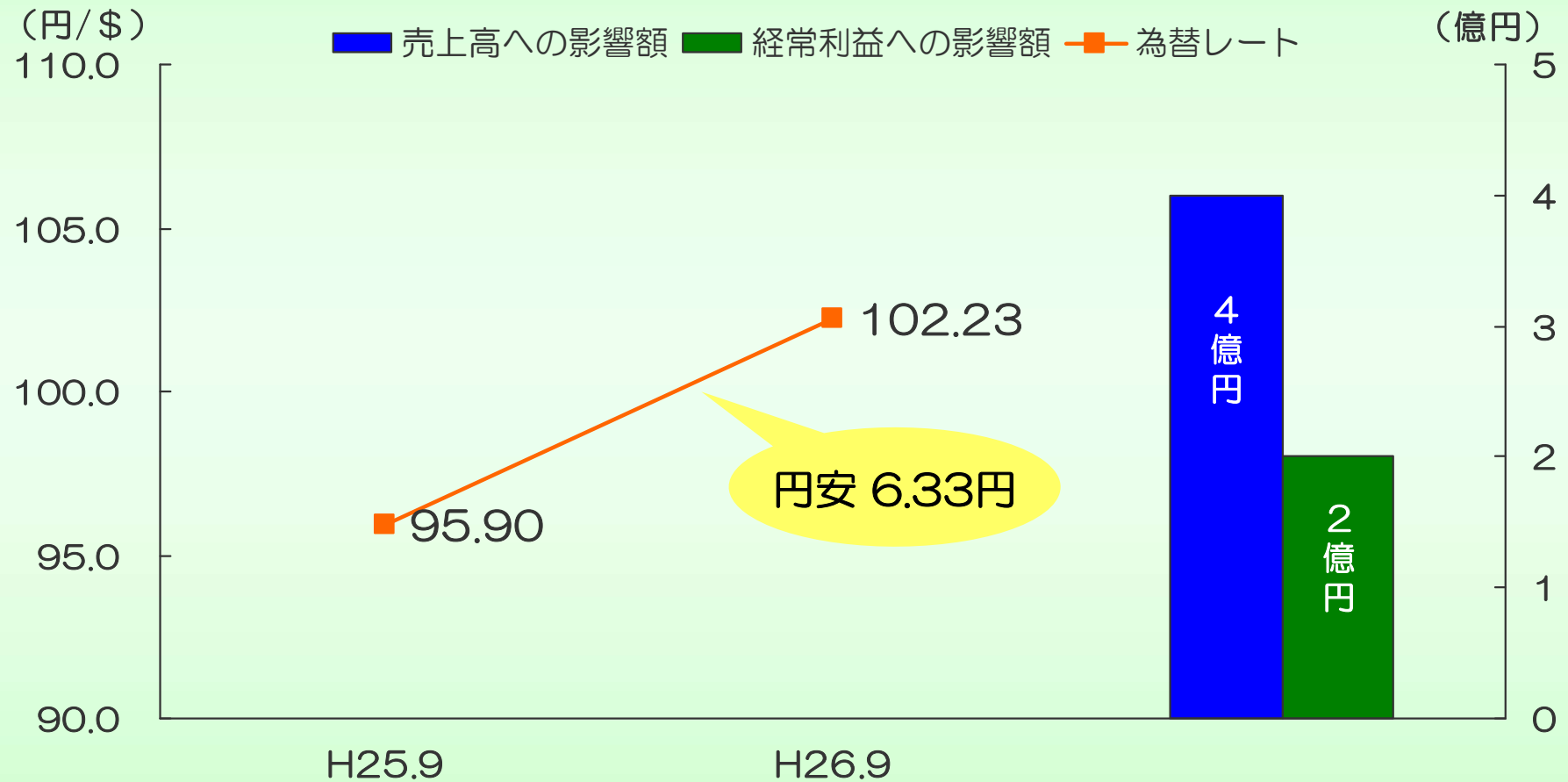
(単位：億円)

	H25/9	H26/9	前年同期比
売上高	419	447	+6.6%
営業利益	△5	7	-
経常利益	0	13	-
当期利益	2	7	+208.5%
1株利益	1.48円	4.76円	
中間配当	3.0円	3.0円	

連結損益の推移




為替の影響



連結経常利益の変動要因

H25年9月期 経常利益 0.4億円



増加要因	17億円
売上高の増加	7億円
合理化・改善の効果	1億円
粗利益改善	6億円
為替の影響	2億円
その他	1億円
減少要因	5億円
減価償却費の増加	2億円
販売費一般管理費の増加	3億円

H26年9月期 経常利益 13億円

特別損益

(特別損失)

△0.6 億円

内訳 固定資産処分損

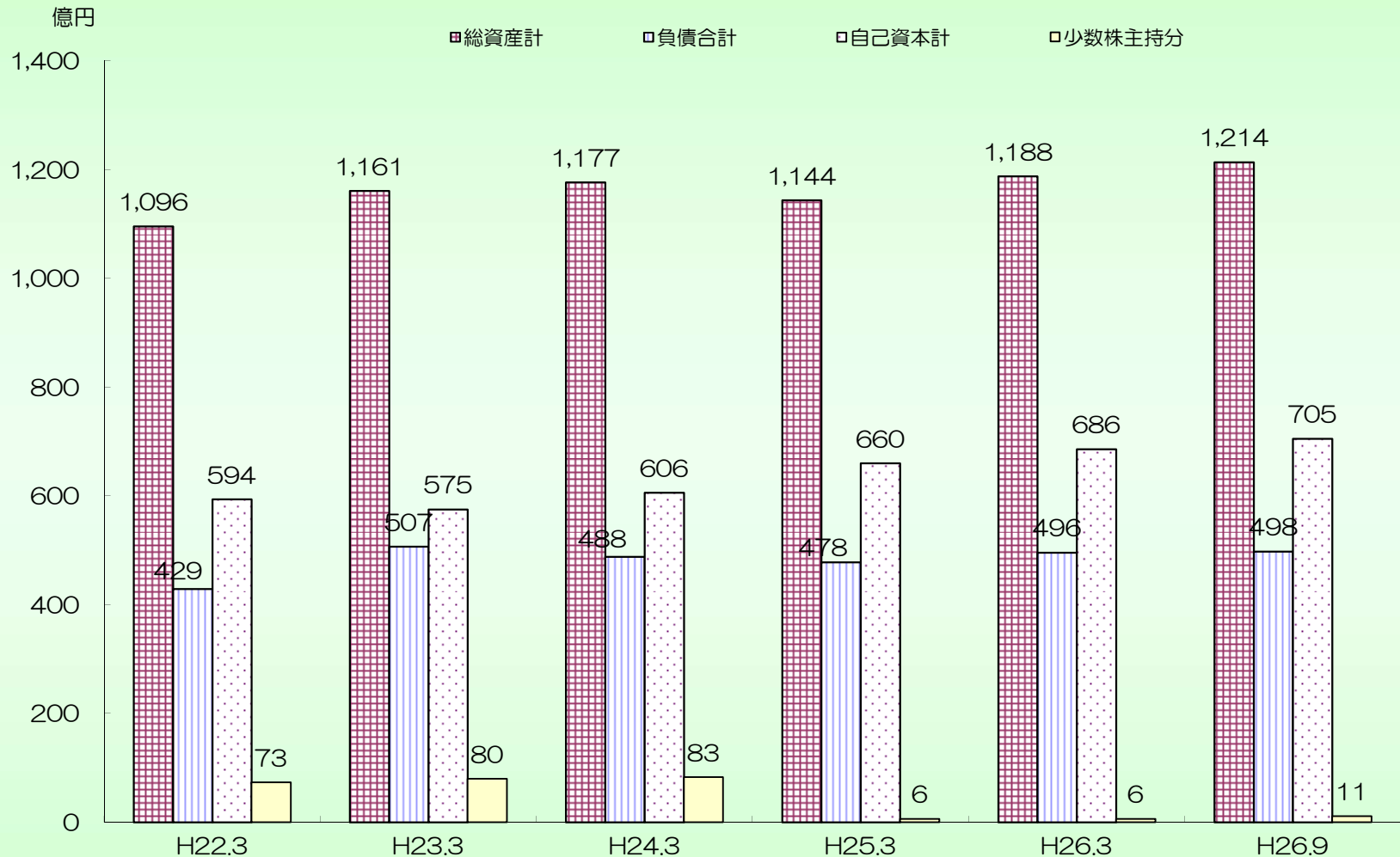
△0.6 億円

比較貸借対照表

(単位：億円)

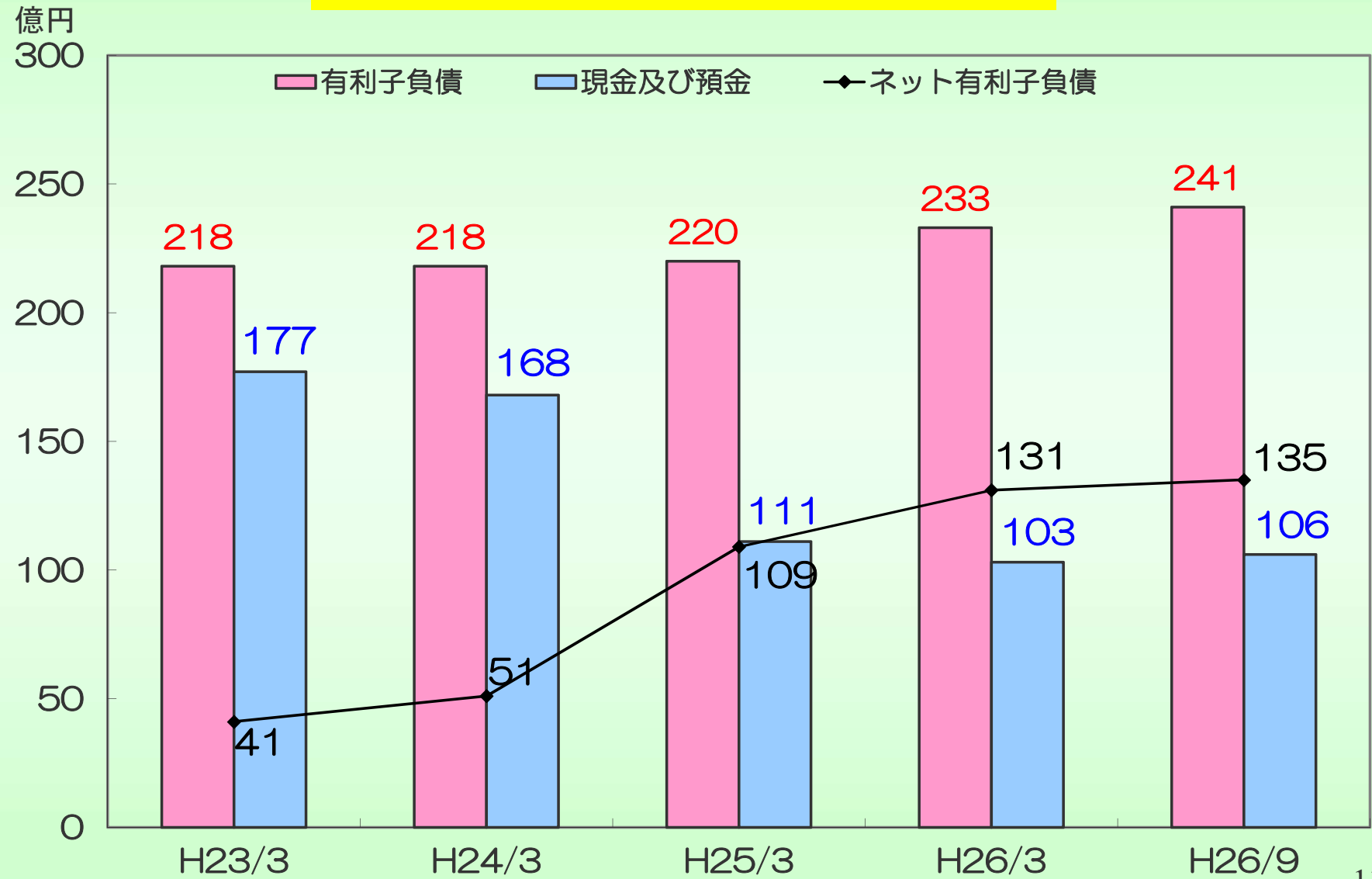
	H26/3	H26/9	増 減
総 資 産	1,188	1,214	+26
流動資産	505	506	+1
固定資産	683	708	+25
負 債	496	498	+2
純 資 産	692	716	+24
(内、少数株主持分)	(6)	(11)	(5)
一株当り純資産	478 円	491 円	13 円

貸借対照表残高の推移



	H22.3	H23.3	H24.3	H25.3	H26.3	H26.9
自己資本比率	54.2%	49.5%	51.5%	57.7%	57.8%	58.1%

有利子負債残高



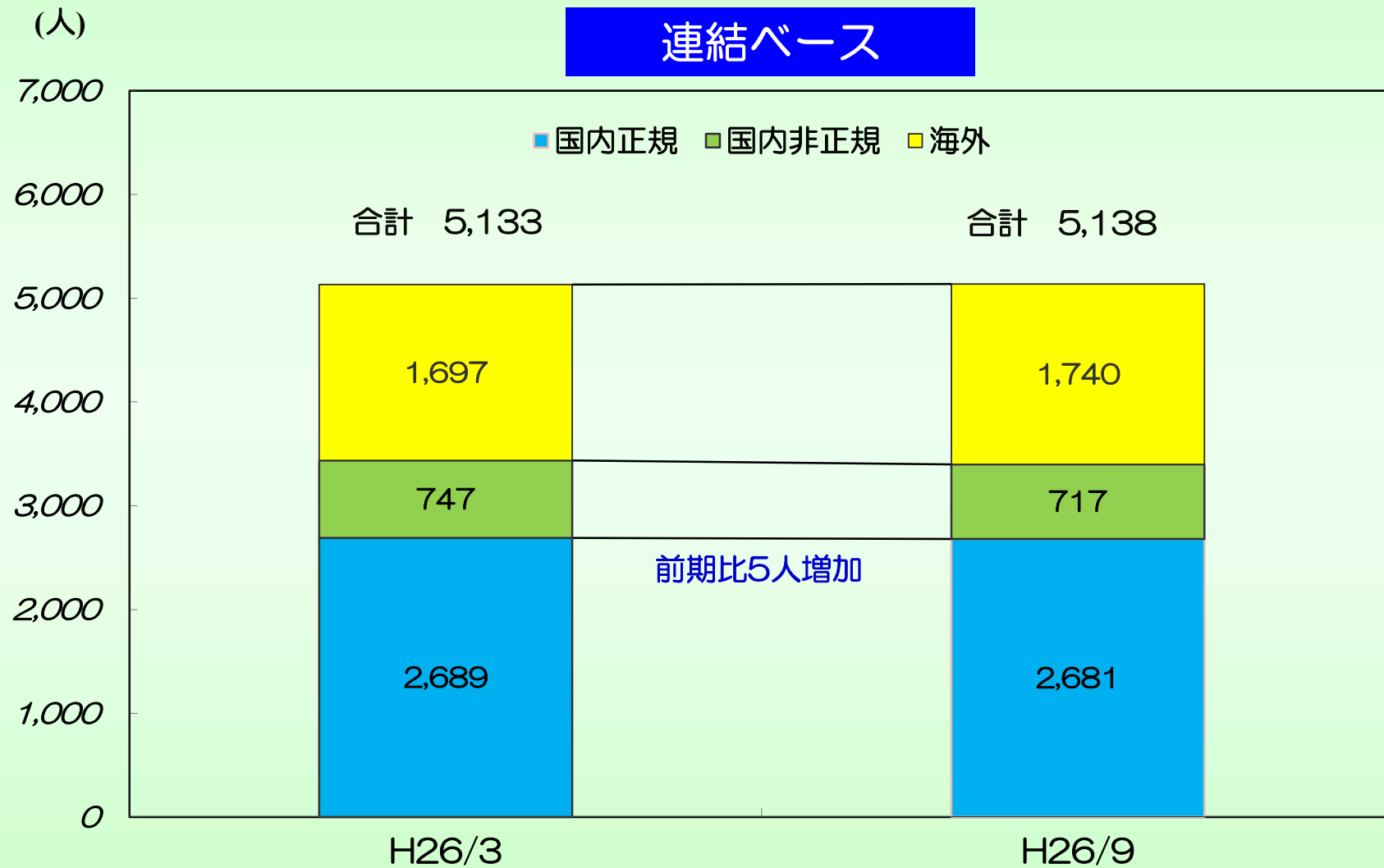
キャッシュフロー

(単位：億円)

	H25/9	H26/9	増 減
営業活動によるCF	19	24	5
(内、法人税等)	(Δ3)	(Δ6)	(Δ3)
投資活動によるCF	Δ36	Δ22	14
フリーキャッシュフロー	Δ17	1	18
財務活動によるCF	Δ6	3	9
(内、長短借入金純増減)	(Δ0)	(8)	(8)
現金及び同等物残高	72	92	20

期末人員数

連結ベース



セグメント別動向

— 事業概況 —

工業機材

研削砥石

ダイヤ・CBN 工具

研磨布紙

セラミック・マテリアル

電子ハート
蛍光表示管

厚膜回路基板
セラミック原料

石膏・コア・担体
電子部材

エンジニアリング

乾燥・焼成炉

濾過装置

切断装置

食器

米州

欧亜

国内

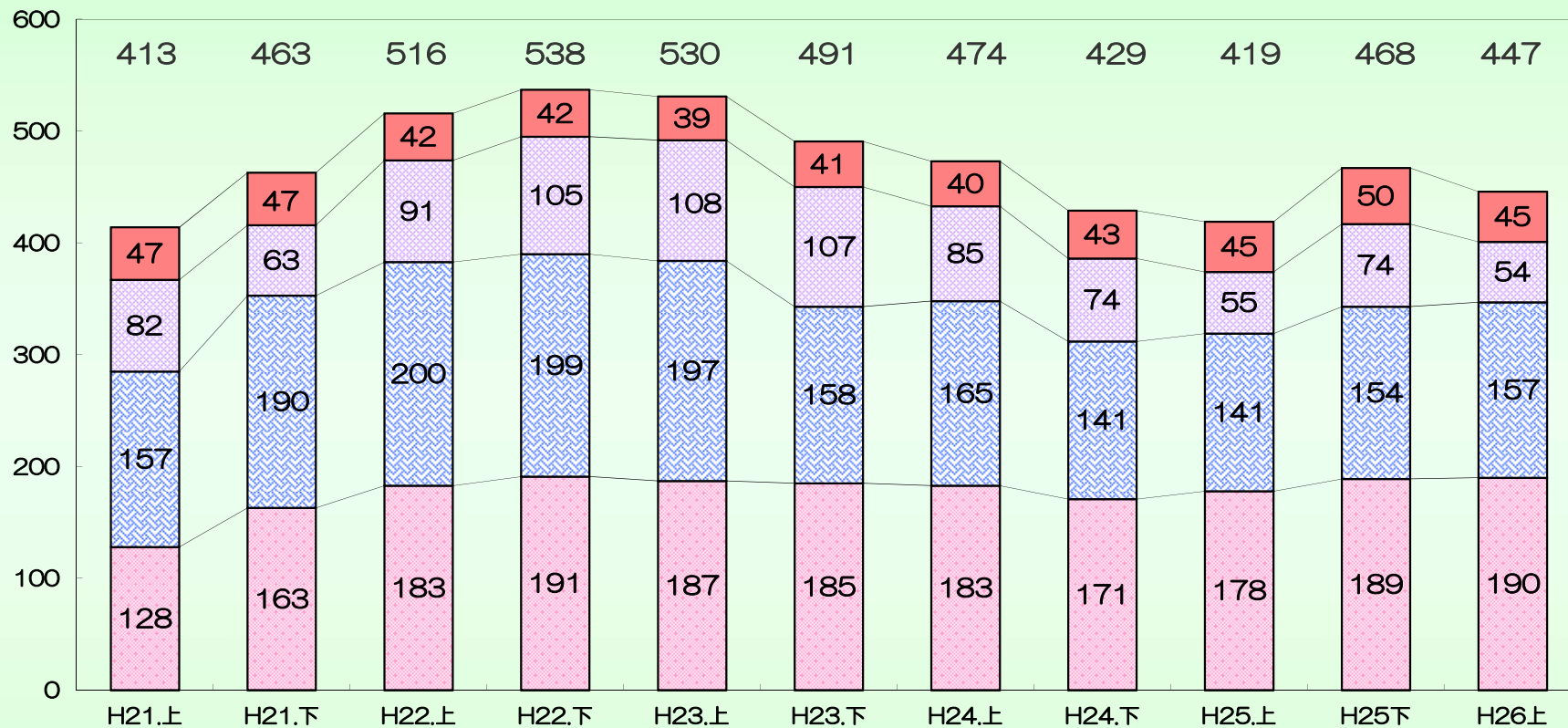
セグメント別売上高（前年同期比較）

（単位：億円）

	H25/9	H26/9	前年同期比
工業機材	178	190	+6.9%
セラミック・マテリアル	141	157	+11.8%
インジニアリング	55	54	△2.6%
食器	45	45	+0.7%
合計	419	447	+6.6%

セグメント別売上高推移

(億円)



□工業機材

□セラミック・マテリアル

□エンジニアリング

□食器

セグメント別営業利益

(単位：億円)

	営業利益		営業利益率	
	H25/9	H26/9	H25/9	H26/9
工業機材	1.6	3.0	0.9 %	1.6%
セラミック・マテリアル	1.0	6.9	0.7 %	4.4%
インジニアリング	△4.8	△0.5	△8.6 %	△0.9%
食器	△2.6	△2.2	△5.8 %	△4.8%
計	△4.8	7.1	△1.1 %	1.6%

工業機材事業

(単位：億円)

売上高	H25/9	H26/9	前年同期比
研削砥石	70	77	7
ダイヤ・CBN 工具	58	61	3
研磨布紙	33	34	1
関連商品	17	18	1
合計	178	190	12

セラミック・マテリアル事業

(単位：億円)

売上高	H25/9	H26/9	前年同期比
電子ペースト	34	41	7
セラミック部品	7	7	0
石膏	10	12	2
厚膜回路基板	15	16	1
蛍光表示管	22	23	1
セラミック原料	34	33	△1
電子部材	19	26	7
合 計	141	157	16

エンジニアリング事業

(単位：億円)

売上高	H25/9	H26/9	前年同期比
乾燥・焼成炉	37	36	△1
濾過装置	5	7	2
切断装置	10	7	△3
スタティックミキサー等	4	4	0
合 計	55	54	△1

食器事業

(単位：億円)

売上高	H25/9	H26/9	前年同期比
米州	12	15	3
欧亜	12	11	△1
国内	21	20	△1
合計	45	45	0

本日の内容

平成27年3月期

連結業績予想

及び重点施策


平成27年3月期 連結業績予想

(単位：億円)

	H26/3			H27/3				
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	通期増減	増減率
売上高	419	468	887	447	483	930	43	+4.9%
営業利益	△5	13	8	7	10	17	9	+116.7%
経常利益	0	19	19	13	14	27	8	+39.9%
特別損益	7	△2	6	△1	△3	△4	△10	-
税前利益	7	17	25	12	11	23	△2	△11.5%
当期利益	2	11	13	7	7	14	1	+6.6%
US\$為替	98円			102円	100円	101円	3円の円安	

連結経常利益（予想）の変動要因

H26年3月期 経常利益 19億円



増加要因	18億円
売上の増加	8億円
合理化・改善の効果	2億円
粗利益の改善	6億円
為替の影響	2億円
減少要因	10億円
減価償却費の増加	4億円
一般管理費・販売費の増加	6億円

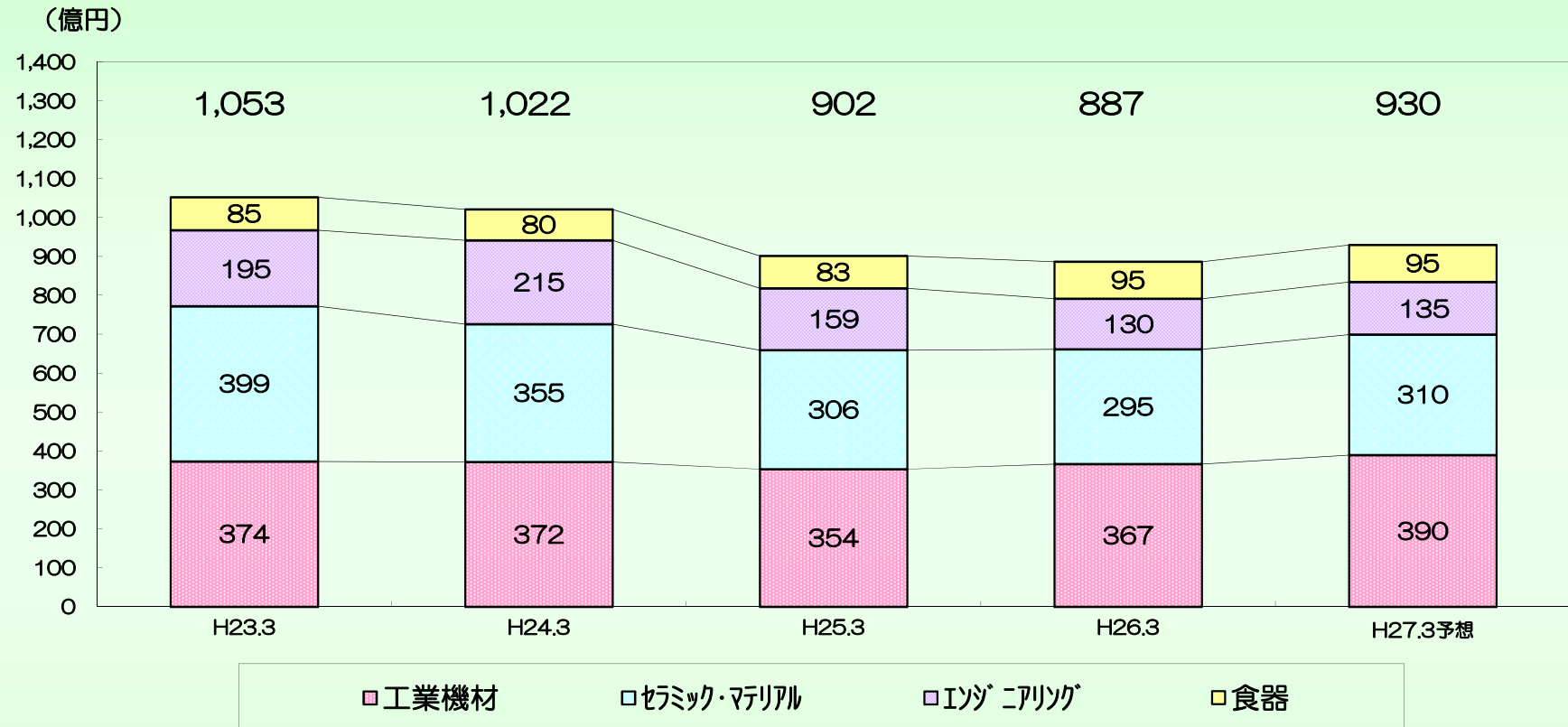
H27年3月期 経常利益 27億円

セグメント別業績予想 (前年度比較)

(単位：億円)

	H26/3		H27/3		増 減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
工業機材	367	8.3	390	9	23	+0.7
セラミック・材料	295	6.4	310	11	15	+4.6
エンジニアリング	130	△4.0	135	0	5	+4.0
食 器	95	△2.9	95	△3	0	△0.1
合 計	887	7.8	930	17	43	+9.2

セグメント別売上高推移



当期の重点施策

1) 価格競争力のある新技術・新商品の開発

- 自動車、電子関連分野での各種用途向け研削研磨工具の新商品開発
- 電子ペースト等電子部材の差別化商品、燃料電池等新用途向けの新材料開発
- 各種電池材料や自動車関連分野での乾燥炉、焼成炉の新商品開発
- 高額食器の商品開発と上質日常食器の商品開発

当期の課題と施策

2) 海外生産拠点の整備と海外市場の開拓

- 海外生産拠点の整備と早期安定稼働
タイのダイヤ・CBN工具工場
中国砥石工場
- 東アジア、アセアン諸国及び北米市場
の開拓

当期の重点施策

セグメント別の海外事業比率

金額ベース：％	海外販売		
	26年3月期 実績	26年9月期 実績	27年3月期 計画
工業機材	25	26	26
セラミック・マテリアル	43	45	47
インゾニアソグ	32	42	32
食器	54	58	55
合計	35	38	37

当期の重点施策

セグメント別の海外事業比率

金額ベース：％	海外生産		
	26年3月期 実績	26年9月期 実績	27年3月期 計画
工業機材	3	4	5
セラミック・マテリアル	21	27	26
インゾニアリング	12	17	14
食器	50	55	54
合計	14	18	17

当期の重点施策

3) 効果的、効率的な経営体制・インフラの整備

- ものづくり活動と
品質保証体制整備の強化・推進

日本レヂボン株式の公開買付け

日本レヂボンの概要：

事業内容：レジノイド汎用砥石（オフセット砥石、切断砥石）の専門メーカー

設立：昭和33年2月

資本金：1,128百万円

従業員数：1,047名

前期実績：売上高168億円
経常利益6億円

日本レヂボン株式の公開買付け

目的：

研削砥石業界において激化するグローバル競争に勝ち抜き、企業価値を高めていくことが必要。

そのために、安定した資本関係のもと、両社のインフラやリソースを結集させ、グループ全体の経営基盤の強化を行っていくことが最善の策と判断。

日本レヂボン株式の公開買付け

期待されるシナジー効果：

- 営業力、ブランド価値の向上
日本レヂボンの得意とする汎用砥石分野と当社の一般砥石の補完関係を活かした製品ラインナップの拡充及び商流・販売ネットワークの相互活用。
- 開発力・技術力の強化
両社が各々培ってきた研究開発やマーケティング機能の相互活用。

日本レヂボン株式の公開買付け

期待されるシナジー効果：

- 生産体制の効率化
両社のグローバルレベルでの生産拠点の連携及び人材交流を含む経営資源の最適配分。
- コスト競争力の強化
調達資材の共通化及び共同物流の実現によるコスト競争力の強化。

* 連結業績への影響は現在精査中。

日本レヂボン株式の公開買付け

今後の組織再編の方針

11月7日-12月18日(29営業日)：買付け期間

12月26日(予定)：決済開始日

株式保有割合が発行済総数の2/3以上に達した場合

平成27年2月上旬(予定)：

日本レヂボン臨時株主総会開催の上、
スクイーズアウト

平成27年3月下旬(予定)：上場廃止